



NGO・NPOの環境保全活動を支援します

～ 環境再生保全機構 ～

地球環境基金便り

No. 53
Autumn/Winter 2022

インタビュー 鈴木福さん

未来をつくる、 環境教育。

- 02 | Special issue
未来をつくる、環境教育。
・さあ！わが家で環境教育
・私たちも「環境教育」活動中
～NGO・NPOの活動事例から～
- 08 | Everyone's activities
認定特定非営利活動法人
アースウォッチ・ジャパン
- 10 | Report
第7回 全国ユース環境活動発表大会
全国大会 開催報告
- 11 | News
「集まれ！グリーンフレンズ」
WEBサイトリニューアル

大人も子どもも
みんなで学ぼう！

NGO・NPOの環境保全活動を支援します

地球環境基金便り

No. 53
Autumn/Winter 2022

Special Interview | FUKU SUZUKI

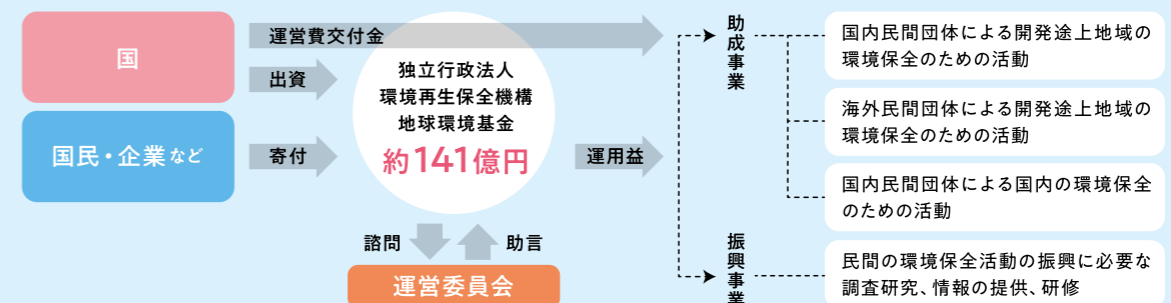
鈴木 福

流行りじゃなく
当たり前にするのが
かっこいい。



地球環境基金とは

環境再生保全機構は、国の出資金と民間からの寄付金により「地球環境基金」を設け、その運用益と国からの運営費交付金により、国内外の民間団体（NGO・NPO）が行う環境保全活動へ支援を行っています。



follow us! /

Twitter @ERCA_kikin



Facebook 地球環境基金



さあ！ わが家で環境教育

環境教育とは、身のまわりの自然環境や環境問題について自分たちの問題として主体的に捉え、関心を持ち、理解を深め、地球を大切にすることを意識や行動の実践につなげること。教科書の中だけでなく、自然や家の中にも、学びや気付きはあふれています。

これからは柔軟な発想で
アクションしていくための環境教育を

環境アクションの牽引役は 若い世代・メディア・企業

環境教育は、子どものためだけのものではありません。すべての世代が、環境問題について学び考えなければいけない時代です。「地球温暖化」が世界共通の課題となり、約40年が過ぎました。現在では2030年を目標とした「SDGs」や「カーボンニュートラル」など、地球規模で持続可能な社会を目指す取り組みが進んでいます。そんな中、日本では今、若い世代、メディア、企業の3つが環境教育の牽引役となっています。

小・中学校においては、2020年に文部科学省の学習指導要領が大きく変わり、アクティブラーニングの視点が取り入れられるなど、環境教育の教材が充実しました。ただし、環境教育は必修科目ではないため、何をどう学ぶかはそれぞれの先生の判断に委ねられています。気候変動の授業が必修である世界の先進国や地域に比べると物足りないですが、子どもの頃から学校で環境について学んできた若い世代は、頼もしい存在です。一方、テレビ番組や新聞、雑誌などのメディアで環境問題が取り上げられるこ

とが多くなり、幅広い世代で環境意識が底上げされています。これには、あらゆる企業がSDGsやカーボンニュートラルに積極的に取り組み始めているという背景があります。長らく企業の環境活動という点、植林や動物保護活動をサポートすることなどが多かったのですが、今はそれぞれの本業と関わりのある分野でどう取り組むかが問われ、その活動が企業価値を左右する時代になっています。

リサイクルはもちろん まず家に入るプラスチックを 減らそう！

子どもも大人も家族みんなが環境問題に触れる機会が増えた今、これからは知るための環境教育から、アクションするための環境教育が大切です。2年前にレジ袋が有料化され、私たちの行動は変わりました。今年の4月からは「プラスチック資源循環促進法」が施行され、3R（リデュース、リユース、リサイクル）+1（リニューアブル（再生可能資源の活用））などが目標に掲げられています。家庭内に持ち込まれるプラスチックの多くは、ペットボトルや食品の包装です。リサイクルも重要ですが、そもそも使わ

お話を伺ったのはこの方



京都大学大学院
地球環境学堂
准教授
浅利美鈴さん

京都大学大学院工学研究科卒。博士(工学)。京都大学環境化学センター助教を経て、現職。「3R・低炭素社会検定」「京都里山SDGsラボことす」主宰。研究テーマは「ごみ」。京都大学のエコキャンパス化をはじめ環境教育に注力。

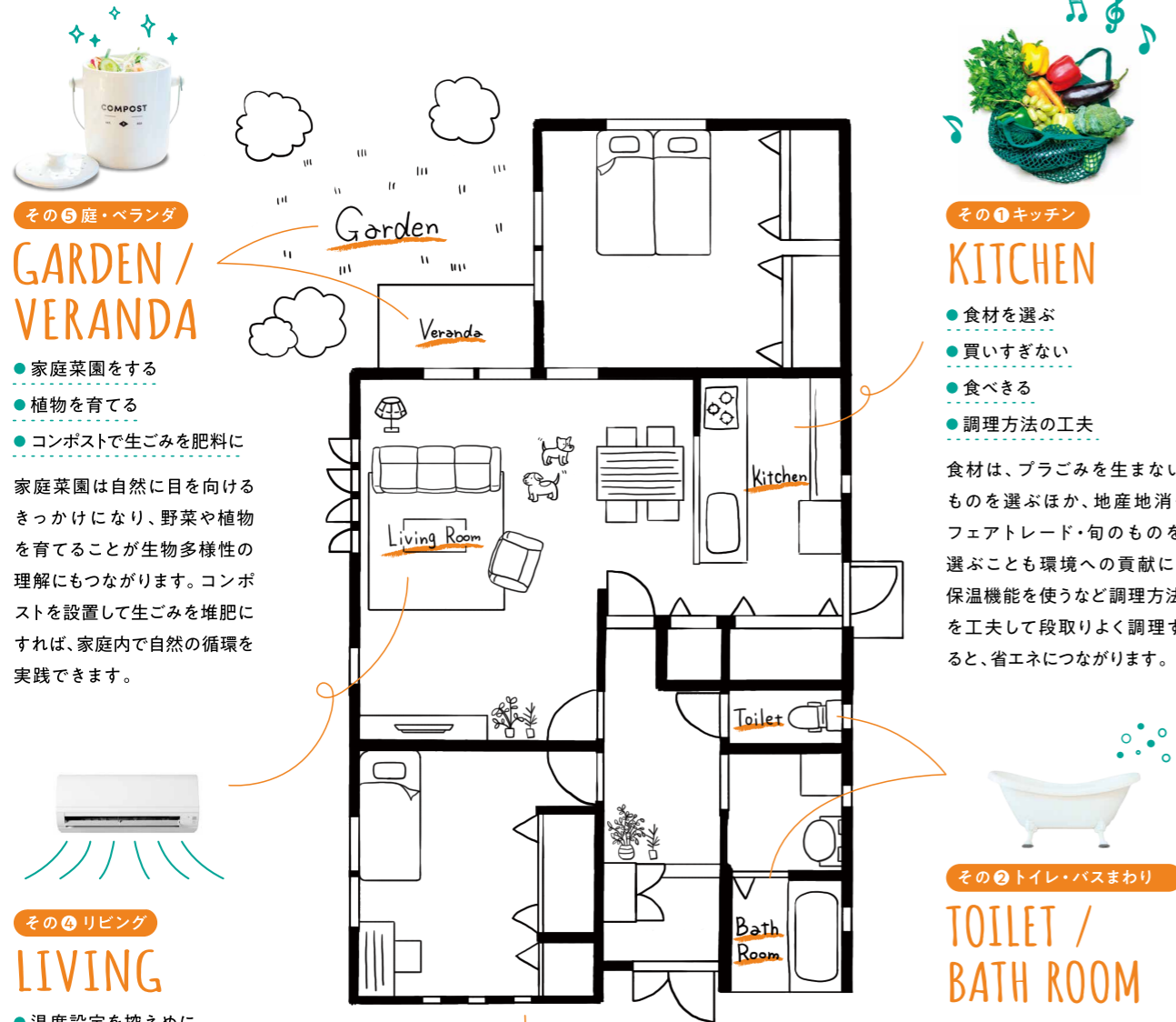
ない。選ばないという、生活者の意識変革が欠かせません。例えば、過剰包装は避け、裸売りの野菜を買うといった選択です。提供する側にもプラスチック以外の選択肢を増やす努力が求められています。また、環境無関心層の意識を0-1にするのが重要です。例えば、家庭菜園をやっている家庭や健康志向の高い家庭には、プラスチックの流入が少ないという調査結果があります。こうした趣味や嗜好からアプローチし意識変革を促す発想も必要でしょう。消費と暮らしの行動研究が環境意識層を広げる糸口になりそうです。

LET'S START! いつもの部屋からはじめよう

家庭でできる環境アクションを紹介します。

普段何げなくやっていることが、じつは環境への配慮につながっていることもあります。

ぜひ日頃の行動と照らし合わせて、環境にやさしい行動を心がけましょう。



その⑤庭・ベランダ GARDEN / VERANDA

- 家庭菜園をする
- 植物を育てる
- コンポストで生ごみを肥料に

家庭菜園は自然に目を向けるきっかけになり、野菜や植物を育てることが生物多様性の理解にもつながります。コンポストを設置して生ごみを堆肥にすれば、家庭内で自然の循環を実践できます。

その④リビング LIVING

- 温度設定を控えめに
- 冷暖房器具を掃除する
- 家具を長く使う

温度設定を控えめにするためには、服装の工夫も有効です。熱効率を下げないために、冷暖房機の掃除もお忘れなく。また、家具などは素材を選んで、長く使うことも大切です。

その③屋根・壁 ROOF / WALL

- 断熱をしっかり
- 壁や床材を選ぶ
- 太陽光発電

断熱効率の高い住まいは冷暖房の使用を抑えられます。またシックハウス症候群を防ぐために壁や床材に天然素材を選ぶなども大切です。屋根に太陽光パネルを設置することも省エネにつながります。

その①キッチン KITCHEN

- 食材を選ぶ
- 買いすぎない
- 食べきる
- 調理方法の工夫

食材は、プラスチックを生まないものを選ぶほか、地産地消・フェアトレード・旬のものを選ぶことも環境への貢献に。保温機能を使うなど調理方法を工夫して段取りよく調理すると、省エネにつながります。

その②トイレ・バスまわり TOILET / BATH ROOM

- 節水
- こまめな掃除（とくに浴槽）
- 洗剤選び

じつは家庭用の浴槽は強化プラスチックが主流で、処理が大変です。こまめな掃除で長期使用を心がけましょう。洗剤を、ひとつで多用途できるものにするのもおすすめです。

私たちも「環境教育」活動中
 ~ NGO・NPOの活動事例から ~
 環境教育はさまざまな場で実践されています。助成団体の中から地域とともに環境保全意識を高め、広げる活動に取り組む3団体を紹介します。

CASE.1

森で過ごす自然塾で実践型環境教育を!



代表 加藤康大さん

特定非営利活動法人 **いきものいんく** 北海道伊達市

活動名 北欧の教育農場をモデルとした放課後自然塾(仮)を開講する

野生動物に主眼を置き、小学校での環境教育授業、キャンプ学習会、放課後「いきもの塾」などを主宰。人間だけが特別な生き物でないことを自覚し、人にも自然環境にも配慮できる広い視野を持ち、自分で考え決断し行動できる子どもが増えるよう活動しています。

“じつは北海道にはもともと〇〇?はいません。”

答えは、カメ。緊急対策外来種のミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)はもちろん、北海道にはもともとカメは1種類も生息していません。

なんだと思う?



生きるために必要なことをみんなで学んでいます

生き物に触れながら人間と環境の在り方を考える超・実践型塾

北海道伊達市で、子どもたちが放課後の習い事として森に集って活動する「いきもの塾」を開講しています。スウェーデンで行われている、子どもたちが放課後に農場へ行き馬の世話などをして過ごす「教育農場」をモデルにしています。学校と家までの送迎付きで、現在は、木曜教室と金曜教室を合わせて37名の子どもたちが通っています。春の生き物探しや木工、夏の田植えや馬耕、秋の稲刈り、草木染め、火山学習、冬の餅つきや雪山学習など、幅広いテーマで活動。野生生物や環境問題に関することはもちろん、農業、林業、木工、物流、経済など、これからの社会で自立して生きていくために必要なことはなんでも、みんなで学んでいきます。

この環境教育を通じて伝えたいのは、人間が楽しく豊かに暮らすことを優先してきたために、野生動物たちの営みや自然環境に大きな影響を及ぼしているという現実を、実体験を交えて自覚することです。例えば、北海道にもともとカメは生息していません。外来種として防除の対象となっています。活動の中でカメを発見した子どもたち。捕獲した後、飼うか、殺処分するか、



池でクサガメを発見し捕獲。

この池に持ちこまれた動物の多くが殺処分されていく現実を学びます。人間社会の営みはどうしても自然破壊を伴いますが、何も知らない、考えないのではなく、身近な自然から感じて、考えることが大切です。ここから環境保全への意識が育まれていきます。

環境教育を通じて自分で決められる力を養う

いきものいんくの活動には「自分がすることは自分で決める・自分のことは自分でする・自分がしたことは自分で責任をとる」という3つのルールがあります。塾の子どもたちもはじめは「テーマを伝える」「何をしたらいいの?」と聞いてきますが、それを考え、自分の

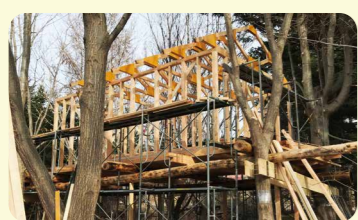


教えるのは道具の使い方だけ。何をどうするか考えるのは本人です。

で決めて動くことが大切であることをくり返し伝えるうちに変わります。例えば、木の看板を作る木工のプログラムでは、道具の使い方を教えてあげるだけで、立派な看板を作りあげ、さらに、端材をつなぎ合わせて創意工夫し、自分がほしいおもちゃを作って遊び始めます。頼もしいものです。

ある日、鉱物に興味をもった子どもたちも、磁石を持って砂鉄探しに出かけたことがありました。いきもの塾で意気投合した仲間同士です。インターネットで地形を調べ、川が曲がっている場所に砂鉄が溜まっているのではないかと予想を立て、そのために必要な道具は何が相談したのだそうです。私は、彼らの行動力や好奇心を大切にしたいと思いました。興味をもったら自分たちで調べ、考え、知恵を出し合う。子どもたちは、さまざまな力を養うことができます。自然と触れあうことで、力が環境問題だけでなくさまざまな問題を解決していく源になると考えています。

手作りのツリーハウスと環境テキストブック



自生する木の幹をそのまま建物の支柱に。

「いきもの塾」の活動拠点となっているのがツリーハウスです。北海道産の木材にこだわり、地元の林業・製材業・建築業に関わる人たちが大工さん、子どもから大人

まで15名のボランティアも加わり、みんなで作り上げました。SNSを通じてその様子を発信したり、市内10以上の小中学校に案内を出したり、2社の地元新聞社からも取材を受け、新しい環境教育の場として周知することができました。「いきもの塾」や学習会で利用するだけでなく、今後はレンタルスペースとして貸し出すことも考えています。

また、私たちが行っている環境教育活動をまとめたテキストブックの作成も進行中です。広く地域の環境教育の底上げに役立てながら、プロジェクトの自走・継続のための収入源としても活用していく予定です。

活動を続ける中で、私自身の意識が変わってきたことがあります。これまで環境教育の対象は子どもだけと決めていたのですが、もっと大人にも目を向けたいと思い始めました。先日、高齢者の方たちに環境問題の話をする機会があり、そこで「初めて知ることがたくさんあった」など、うれしい言葉をかけてもらったのです。大人への環境教育にも大きな可能性を感じました。じつは「いきもの塾」の対象年齢はもともと「小学1年生以上」としか定めていません。初年度には、お孫さんとおばあちゃんが一緒に通っていたこともありました。世代を問わずそれぞれの立場で考え、決断し、行動できる人が増えるよう、環境教育の門戸を広く開けておきたいと思っています。



お話を伺った、代表の加藤康大さん(右)・五十嵐ありささん(中)・瀧川彩さん(左)。



活動の拠点となる「ツリーハウスつみき」。生き物のすみかである、土・水・木の調文字をとったネーミング。トイレはバイオトイレです。



近隣の編集者とともに制作中の「テキストブック」。幅広い世代に手に取ってもらい、環境や外来種について考えてもらえるようイラストや図を多用し構成。



いきものいんくの森にある池に、名前をつけて、看板を作ります。国立公園の看板は景観を守るために二本足!というこで二本足の看板です。



冬が長い北海道。雪に覆われていても動植物は生きています。川で白鳥を観察したり、森の中で木の冬芽を探したり、雪崩についても学びます。




馬の力を借りて重い農具を引き、草地を農地にする「馬耕」。土を掘り起こした後は米ぬかなどの堆肥を混ぜ込み、畑で作物を育てます。



春の田植えは、ほとんどの子どもが初体験。この後、夏の草取り、秋の稲刈り、さらに収穫したお米を食卓まで行います。

地域とつながった環境教育の「場」を作る!

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば  千葉県

活動名 SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点づくり



桑波田和子さん

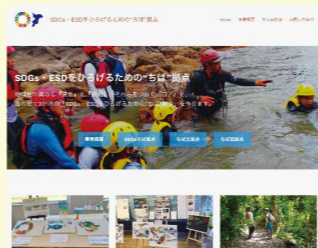
市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「SDGs」「ESD」の視点でさらなる持続可能な社会の実現を目指しています。活動の柱は、多様な主体とのネットワークの構築、SDGs達成のための人材育成、環境学習の企画・提案、情報発信です。

持続可能な視点をもった担い手が揃ってきたら
次は、広げる拠点が必要

つながる仲間が必要なことを
確認し合うのが、はじめの1歩

私たちは、環境保全活動の担い手不足を解消するために、千葉県内で2018年から3年間「SDGsを達成するためのESD地域リーダー担い手育成事業」を実施しました。その成果としてSDGs・ESDの視点をもった46名の地域リーダーが誕生し、それぞれの地域で環境活動を広げようとしています。そんな新たな担い手たちの活動を展開するための場として、多様なニーズに対応するプラットフォームの必要を感じ、地域性の異なる「県北」と「県南」、それらをつなぐ「コア」の3か所に「SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点」を作っています。

環境保全活動は地域づくりと密接に関わるものです。しかし、まちづくりや地域おこしを担う事業者と環境活動の担い手たちが連携する場が少なく、まだまだSDGs・ESDの認知度が高くなかったり、SDGs達成を目指す他団体活動を共有する場がなかったりします。また、



本活動専用のホームページも開設。

活動団体の高齢化、活動団体と学校、企業、行政など多様な主体の協働が広がらないといった課題もあります。私たちは「場」を作り橋渡しになることが、地域の環境を守り、持続可能な地域づくりにつながるかと考えています。

2021年7月に「県南」で「SDGs・ESDフォーラム」を企画し、みなでつながる地域拠点を創ろうと、参加者は76名にのぼり、南房総市内外で環境保全地域づくり、観光、教育、金融、行政などに関わる多様な顔ぶれが集まりました。南房総の資源を活かし、地域+地域外との交流を広げていくこと、地域に若い力を引きこむことなど、熱い思いと意見が交わされ、その結果、「SDGs・ESDちば南拠点」を作ることが決定。活動が具体化しました。このように展開できたのは、地域の団体、企業、行政、事業に関わってきた人たちが「自分ごと」として地域の課題や取り組みの必要性を実感し、「つながる仲間」が必要だと共有できたからだと思っています。

2022年度は「SDGs・ESDのちば北拠点づくり」を目指し活動しています。



公開フォーラムは、会場とオンラインとのハイブリッド開催。

キックオフとなった7月開催の公開フォーラムでは、県北部地域で活動している団体や地域の代表するグローバル企業のSDGs活動の紹介やグループワークの意見交換を行い、参加者一人ひとりが多様な主体となつてつながる一歩を踏み出しました。

体験がくくれる素晴らしさを
若い世代にもっと

小学生から大人まで40名が参加した、屋外ESDプログラム体験会「オケラとトトキ」では、26年にわたり里山の保全に取り組んできた方の思いに耳を傾けながら、みんなで里山を歩きました。小学生でも楽しく学ぶことができ、参加者からは「本物の自然に触れる体験を通して、SDGsやESDへの理解を深めることができました」などの声が届きました。コロナ禍により見送りが続いていた体験会を開催でき、改めてうれしくなりました。地域活動を支えるためには、若い力が必要です。これからも、体験を通して、地域の課題や人の温かさ、熱意などを知る機会を、たくさん作っていきたくと思っています。



里山でのESD体験会。

子どもたちへの環境教育をきっかけに
大人も地域も変わり始める

自然に寄り添う暮らしを守りつつ
環境保全意識を高める

ラオスでは人口の約8割が農業に従事し、自然に寄り添う暮らしを営んでいます。その一方で、急速な開発が進み森林面積や水源が減少、都市化によるごみ問題や環境汚染が深刻化しています。

私たちの活動の始まりは給水および衛生設備事業でしたが、安定的な水の供給には水資源の森を守ることが急務だったため植林事業を展開。村人へ植林技術を伝えるとともに、中学校などで環境意識を高めるワークショップや苗木育成活動、果樹栽培を行いました。その活動を通じて感じたのが、次世代を育成する重要性でした。また、興味深いことに、親世代にはなかなか伝わらないことも、子どもを通すと伝わることを知りました。そこで、コミュニティを変えていくうえで、学校での活動がとても効果的だと考え、2018



中学校での環境教育授業。

年度から学校での環境教育定着を目指して、本活動を始めました。環境教育プログラムの開発・実施を重ねて5年目。現在、教育局

ごみのリサイクルで現金収入
学校生活に活かす

が認証する環境に配慮した学校「グリーンスクール」認定校は2校で、10校の認定を目指してプログラムの改良を進めています。グリーンスクール認証は、教員たちのモチベーション向上につながっていて、自発的に環境保全活動を始め学校も出てきました。SNSのグループで複数の中学校が見つかり、チームとして地域で環境活動に取り組みようにもなってきました。

森林保全や農業課題に比べて、村人たちに馴染みが薄いのがごみ問題です。学校敷地内へのごみのポイ捨ても問題となりました。まずは、ごみ分別ステーションを設置して分別を呼びかけましたが、関心を持たない村人が大多数でした。そこで「この活動は地域の環境保全だけでなく、子どもたちの学習環境を整えることに



プラスチック製ごみ・紙ごみ・燃焼ごみ・生ごみに分別。

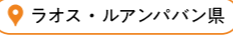
つながる」と丁寧に説明していきましました。さらに、農業大学の学生たちが中心となって、リサイクル可能な資源ごみを天然資源環境



資源ごみを販売し、中学校の環境活動継続の資金に。

いくらか良い事業であっても、そこに住む人々が自ら変えていこうとしなければ何も変わりません。「卒業して自分の村に戻っても環境保全活動をやりたい」と言ってくれた農業大学の学生がいました。そんな地域の人々の熱い思いや行動に触れると、やっつけて良かったと感じ、もっと頑張らなければと思います。

ラオスの中学校に環境教育授業を根付かせる!

認定特定非営利活動法人 日本ハビタット協会  ラオス・ルアンパバン県

活動名 ラオス国ルアンパバン県における地域ネットワークによる環境教育の定着



篠原大作さん

地域の人々とより良い未来を考え、自主性と主体性を養いながら持続可能なまちづくりを進めています。企業や団体との協働を促進し、おのおのの特性を引き出し活かし合う「まちづくりのトータルコーディネーター」としても課題解決に取り組んでいます。



みんなの環境活動

テーマも取り組みも十人十色!

助成団体の活動の中から注目のテーマや取り組みをクローズアップしてご紹介します

木曾馬でつながる 地域文化と豊かな生態系の草地

専門家の知見と地域の知恵をつないで生物多様性を守る

長野県木曾町では木曾馬を飼育する歴史が文化の特性を形づくってきました。かつて開田高原(かいだこうげん)は馬の飼養のための採草地として利用され、約5,000haの草地が広がっていました。しかし、近年の社会変化に伴い馬の需要が減り、700頭の木曾馬が今では40頭程度に、草地面積も5.2haに減少してしまいました。

このうち0.5haの草地では火入れや採草という伝統的な手法で維持管理が続けられ、希少な昆虫や植物が息絶えています。長野県希少野生動物保護条例で保護区にも指定されていますが、高齢化が進む中、多くの人手が必要な伝統的な草地管理の担い手不足が課題となっています。

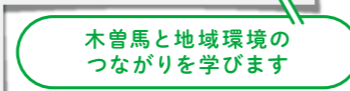
私たちの活動は、草地での花の調査を通じて、地域内外の人たちが交流し、日本にわずかに残るこの半自然草地の実態や、地域の自然と文化のつながりを考えていく取り組みです。世界中でさまざまな活動をしているアースウォッチにとっても、地域



自生する花の種類を調査!



木曾馬の飼いや葉について学ぶ



木曾馬と地域環境のつながりを学びます



地域の自然や文化を育んできた木曾馬

所属や立場を超えて 関係者全体がひとつの共同体に

勉強会を通じてつながった地域の人脈が自主的に運営に加わったオンラインシンポジウムでは、地域内外から140名の応募があり、木曾町住民20名を含む122名が視聴。木曾町全戸に配布した案内チラシ、新聞への掲載やケーブルテレビでの報道を通じて、地域内に本活動を周知することができました。開催後には、町議会議員や町民から現地協力者に連絡があったほか、シンポジウムを視聴した地域外の観光客が現地を訪れるなど、さまざまな反響があり手応えを感じることができました。

特定の代表機関が主催するのではなく、研究者や現地NPO、勉強会に参加したメンバーで「木曾馬文化と草原の再生チーム」というコンソーシアムを作り「関係者全体がひとつの共同体として主催する」という形をとったことにより、地域が運営に加わ

専門家×地域の交流がカギ!



の文化と自然の多様なつながりを実地で学び、保全することの本質的な意義を知る貴重な活動となっています。木曾馬の文化が復活し、開田高原の草地利用が促進され、草原環境の生物多様性が保全されることを目指しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により現地調査は中止せざるを得ない状況が続きましたが、通信環境を整え、オンラインの勉強会を積極的に開催してきました。研究者による講義を中心に、地域の方と意見交換をしながら、それぞれがもつ知見を高め合いました。毎回15〜20名の地域関係者が集まり、参加者は3回でのべ96名。専門家もつ獣医学や植物生態学の知見と地域がもつ知恵が合わさり、参加者全員に本地域の特性や価値を共有できたほか、活動に対する現地の理解者を増やすことができました。勉強会を重ねるうちにリピーターが増え、今年3月に開催したオンラインシンポジウムでは、その方々が率先して木曾町内の広報や会場設営、現地でのメディア対応をしてくれました。

在来の花が咲く採草地を再生し 木曾馬を放牧していく

この6月に開催した現地活動では、長野県松本市や福島県、東京都などから参加した市民ボランティア5名とともに、開田高原内の草地で2×20mの調査範囲を複数設定して、咲いているすべての花の名前と咲いている花の数を調べて記録しました。草地管理の違いによって植生が異なることを、実体験をもとに把握できました。引き続き植生調査を行うほか、地域づくりの勉強会も継続させ、ステークホルダーの輪を広げていきます。

木曾町では2040年を目指して、町の施設である「木曾馬の里」の施設面積を拡張し、40頭の木曾馬を100頭まで繁殖させる構想を描いています。潜在的な地域資源としての木曾馬文化や草地の生物多様性の存在が可視化され、持続可能なツーリズムなどの地域づくりに展開することが期待されます。私たちも協力し、在来の野の花が咲く採草地や、「二二」と呼ばれる伝統的な干し草積みが見られる景観を再生し、地域内に点在する草地に木曾馬を放牧していく予定です。活動の成果をもとに、将来的にはエコツーリズムの提案・情報発信、伝統的な草地管理や学術調査を通じた草原環境の再生、木曾馬を活用したコミュニティビジネスといった具体的な事業化を、地域で検討していきたいと思っています。

今回お話を伺ったのはこの団体

認定特定非営利活動法人 **アースウォッチ・ジャパン**

活動名 **長野県開田高原における木曾馬文化と草地の再生を軸にした地域づくり**

アースウォッチは、多くの時間や労力を必要とする地道な野外調査の現場に、一般市民をボランティアとして派遣している国際環境NGOです。一般市民と科学的な野外調査をつなぐことで研究を支援し、市民が自然環境や生態系の変化に対する理解を深め、持続可能な環境を維持するための行動に結びつけることを目的としています。

団体の設立年月 **1993年1月**
 本活動の開始年 **2021年** **地球環境基金の助成年数** **2年目**



木曾馬の歴史

- 4世紀以降 日本に馬が渡来
- 古墳時代 騎馬・農耕・荷役で活躍
- 江戸時代後期 木曾で開墾が進み馬の飼育が始まる
- 1900年代前半 700頭の木曾馬を飼育
- 1944年 木曾馬保存会が発足
- 2010年代 木曾馬が40頭にまで減少
- 2018年 長野県環境保全研究所が伝統的な草地管理による希少種の保全と木曾馬文化の復活を結び取り組みを開始
- 2019年 地元NPO「二二と草カッパの会」設立
- 2020年 アースウォッチ・ジャパンが現地で活動開始

木曾馬とは?

北海道や沖縄など、日本に現存する在来馬は8種類。本州で飼育される唯一の在来種が木曾馬です。



集まれ!グリーンフレンズ



リニューアル
オープン

「環境」を取り巻く課題や今注目のキーワードを、9つのカテゴリーや、五十音順の索引から探して学習できます。小中学生の環境学習や総合学習のツールとして、ぜひご活用ください。



子どもたちの疑問・興味・好奇心に
楽しく答えます

例えば……

「かんきょうきょういく」
ってなに?

環境キーワード辞典で調べよう!



「環境広場さっぽろ2022」に出展しました!

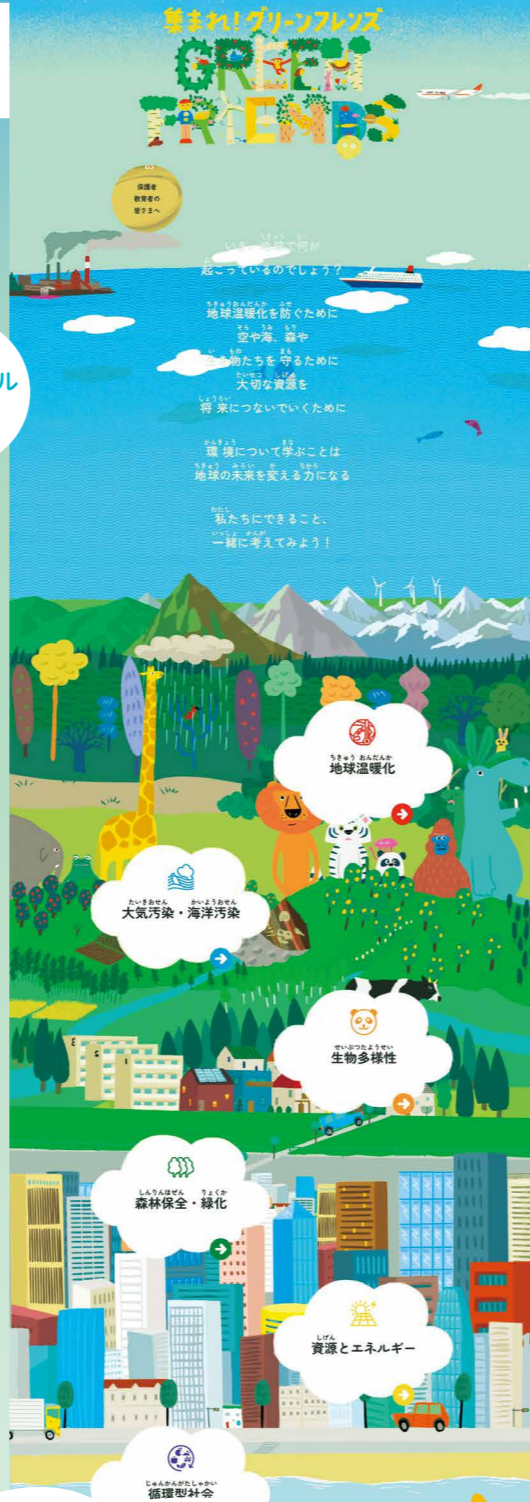
2022年7月30~31日、札幌ドームにて「環境広場さっぽろ2022」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、札幌ドームでのリアル開催は3年ぶり。環境問題を中心にSDGsの視点も取り入れたこのイベントで、昨年度リニューアルオープンした「集まれ!グリーンフレンズ」を、来場した子どもたちに体験してもらいました。



きんちゃんがお出迎え!

みんなで環境クイズに挑戦!

わからない言葉はサイトで検索



第7回 全国ユース環境活動発表大会全国大会 開催報告

日本全国のユース世代による自主的な環境活動の継続・発展、ネットワーク拡大を目指す「全国ユース環境活動発表大会」。

第7回を迎えた今回も、前回に引き続き発表動画を審査する「WEB大会」形式で開催しました。

8つの地方大会から選抜された16団体が全国大会に出場し、環境大臣賞などの各賞が決まりました。

概要

日程：令和4年1月21日(金)~1月31日(月)
(オンライン開催 動画発表)

主催：全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・
国連大学サステナビリティ高等研究所)

後援：読売新聞社

協力：地方環境パートナーシップオフィス(EPO)/地球環境パートナーシッププラザ(GEOP)/ESD活動支援センター

協賛：キリンホールディングス株式会社/協栄産業株式会社/
SGホールディングス株式会社/株式会社タニタ



環境大臣賞

青森県立名久井農業高等学校
FLORA HUNTERS



視点はSDGs
節水型塩害抑制技術の開発

世界には塩類集積のため農業ができない乾燥地も多い。蒸発する土壌水分の動きと製鉄業の副産物である転炉スラグを用いて、塩類集積の発生を抑制する節水型システムを開発。塩類集積を完全に抑え作物が栽培できることを証明。



環境再生保全機構
理事長賞

群馬県立尾瀬高等学校
理科部



地域のシカ問題を考える
~私たちの取り組む4つの行動~

尾瀬国立公園をはじめとする自然環境に育つ植物は貴重な自然の一部であり、重要な観光資源でもある。その植生がニホンジカによる被害を受けていることから、「育て・増やす」「守る」「調べる」「伝える」の4つの行動をした。



国連大学サステナビリティ
高等研究所 所長賞

愛媛大学附属高等学校
理科部ブラガールズ



海洋性細菌を利用した海洋マイクロ
プラスチック汚染解消への挑戦

県内の海浜に漂着するマイクロプラスチックを調査し、製造企業に生分解性製品化の可能性を提案。天日塩中から海洋性細菌を単離培養し、生分解性プラスチックを合成させ海洋で分解されることを確認した。



読売新聞社賞

富士宮高校会議所

SDGs実践マスマス元肥(げんび)を
使って、富士宮をマスマス元気に!!

富士宮市のニジマス養殖量は日本一。残渣を朝霧牛の糞尿で堆肥化し、堆肥が有効な農産物を二次加工してスイーツなどの製造を行った。



高校生が選ぶ特別賞

長野県立佐久平総合技術高等学校
食品加工部

酒粕をアップサイクル
~カスを価値に 未来へ佐久咲け!~

日本酒の米栽培、醸造、販売の取り組みの中で「酒粕」の需要が低迷している。食品ロスの削減と地域活性化を目的に商品化を達成。



先生が選ぶ特別賞

京都府立宮津天橋高等学校
フィールド探検部② 大手川探検隊

人、川、ハッピー
~大手川の手がかり~

絶滅危惧種の魚がいたり、作りかけの親水公園があったりした大手川。親水公園再生に着手し、おさかな図鑑の制作を計画した。



優秀賞

北海道大野農業高等学校
果樹専攻班

地域内循環を中心とした
環境保全型農業を目指して

出雲西高等学校
インターアクトクラブ

出雲西高発!!
水環境改善プロジェクト

北海道標津高等学校
自然科学部

綺麗な海を守ろう!
標高生の3つの取り組み

岡山県立倉敷天城高等学校
プラズマ・モデルロケット研究班

プラスチックストローで
宇宙をめざそう!

青森県立むつ工業高等学校
設備・エネルギー科
地中熱利用による融雪研究班

R3 課題研究 地中熱利用
による融雪研究と農業

香川県立三本松高等学校
三高みんなの食堂プロジェクト

三高みんなの食堂プロジェクト

長野県木曽青峰高等学校
里山部

青峰里山プロジェクト

長崎県立諫早農業高等学校
食品科学部

環境保全活動 ~持続可能な消費と生産について~

奈良育英高等学校
生徒会とユネスコ委員会

環境問題は深い

大分県立大分工業高等学校
DAIKO 風車プロジェクト

DAIKO 風車プロジェクト

We are 環境 Player! #01

「若手プロジェクトリーダー研修」は 仲間とともにスキル&モチベーションアップできる場です

地球環境基金では、これからの環境活動を担う若手プロジェクトリーダーを育成するため、年3回の研修を3年間行うサポートプログラムを実施しています。日本はもちろん世界中で活動する研修生たちと交流し、ヒントと刺激を与え合えるのも魅力。自団体のプロジェクトを成功に導き、成果を出すために必要な多彩な力を養います。



7 期生 | 同世代の仲間がいることがうれしくて、刺激になります



特定非営利活動法人
循環生活研究所 山村 ひかりさん

「こんなにたくさんの若手が日本だけでなく世界中で、環境や人のために活躍しているんだ!と、衝撃を受けました。研修に参加する前は知識を得るのが主だと思っていましたが、毎回、やる気やモチベーションを得ています。難しい課題もありますが、とても楽しいです。私は今年が研修の最終年ですが、ぜひ後輩にもすすめてたい!」

8 期生 | 一人ひとりに焦点を当ててから自信につながります



認定特定非営利活動法人
開発教育協会 牧 啓太さん

「研修1年目に行った自己理解を深めるプロセスを通じて、自分の強みや課題がわかり、自信につながりました。活動や組織に対するコンサルはほかでもありますが、活動する一人ひとりに焦点を当てるのは珍しく、とても有意義です。組織について向き合い学ぶ2年目。研修で得たものを、団体の活動に活かしていきたいと思えます」

9 期生 | 研修1年目がスタート!



9期生は半数以上が、ヨルダン、バングラデシュなど海外を拠点に活動中です。グローバルな顔ぶれが臨む研修1年目は、自身の強みやキャリア形成を考えながら、プロジェクトリーダーとしての役割、成果目標までの道筋を確認していきます。3年間の研修経験が、世界中で活躍する皆さんの力になりますように!

編集後記

『地球環境基金便り』が リニューアルしました!

引き続き、環境に関する旬な情報や魅力的な特集、地球環境基金事業のご紹介など盛りだくさんにお伝えしてまいります。ぜひご期待ください!!
ご意見・ご感想もお待ちしております。



表紙写真/北海道で環境教育を行う「特定非営利活動法人いきものいんく」の活動の一場面
(写真提供:特定非営利活動法人いきものいんく)

読者アンケートにご協力いただけませんか?

お答えいただいた方の中から抽選で、10名様に地球環境基金オリジナル・エコボトル、3名様に鈴木福さんのサイン色紙をプレゼントします。ご回答お待ちしております!

【応募締め切り】
2023年2月末
【応募方法】
アンケートはがき、WEBサイト



※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



基金へのご支援をありがとうございます

皆さまのご協力が、多くの環境保全活動、持続可能な社会実現への支えになっています。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、さまざまなイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

地球環境基金のサポーターの皆さま

2022年1月から6月末日現在までに、682件、総額 **18,020,575** 円のご支援をいただきました //

個人

青木 大地 後藤 啓吾 藤田 周一
浅野 不二子 小林 大 前田 綾香
飯田 浩二 小林 正幸 真壁 博一
池亀 裕子 駒田 義和 増田 茂子
池田 朝雄 酒井 航介 松本 大
石井 宏作 崎山 泰樹 村上 基
石川 倫 笹生 真悟 柳田 朋子
石川 千恵子 佐野 郁夫 山崎 節子
石田 洋子 篠原 泰 吉川 義久
板谷 久米雄 清水 純子 吉田 龍貴
伊藤 文子 志村 和男 渡部 智寛
井上 雅晴 白石 久代
今田 圭孝 城田 義隆
植松 太郎 杉本 敦也
宇野 雅子 千田 昌子
大木 恒和 高橋 明
大林 祐貴 高橋 泰子
大山 美民 田中 学
岡本 昇 谷山 正恵
小澤 朱美 中島 わか
片岡 真一 中原 宏
加藤 信幸 西久保 裕彦
門畑 裕美子 西嶋 東州雄
川邊 康子 橋本 雄次
喜田 晴世 花里 智貴
功刀 正行 馬場 キヨ子
窪原 麻希 土生 亜紀子
栗村 秀雄 平岡 大作
腰越 泰文 福山 妃美子
小関 ミイ子 福与 みちよ

企業

浅香工業株式会社
株式会社朝日フィナンシャルグループ
有限会社アメニティ・ライフ・エイド
Albizia jewelry
イーパートナーズ株式会社
嬉野温泉病院
奥野製薬工業株式会社 東京支店
オリンパス株式会社
株式会社キヨナガ
株式会社サニーサイドアップ
JNC株式会社
株式会社ジャパンクリエイティブ
株式会社そごう・西武
株式会社ソルバック
大信業局 たまプラーザ店
株式会社橋フォーサイトグループ
續特許事務所
鳥取ファーマーズガーデン
はるな薬局
Pixel Anglers
ファミリーマート八王子甲州街道店
株式会社福原サービス
ポケットカード株式会社
三井住友海上火災保険株式会社 コンタクトセンター企画部
三菱UFJニコス株式会社
株式会社宗平
株式会社メルカリ

国・地方公共団体

大崎上島町役場
大牟田市役所
海津市役所 市民環境部 環境課
春日部市役所 環境政策課
久慈市
五泉市役所 環境保全課
小林市役所 野尻庁舎
津市役所 環境部 環境政策課
二本松市役所 市民部 生活環境課
常陸大宮市環境市民会議
南足柄市役所 環境課

その他

社会福祉法人いのやま福祉会 野の花
社会福祉法人大洲市社会福祉協議会
一般社団法人全国燃料協会
学校法人 玉川学園
東京都立山崎高等学校
広島県福山市立光小学校
ロハスフェスタ万博2021

企業協働プロジェクト

一般社団法人 日本釣用品工業会

(五十音順・敬称略)

※このリストは、地球環境基金への振込通知書などに記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体などの区別につきましては必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合もございますので、ご了承ください。

■ご寄付口座のご案内

「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。同一金融機関でのお振り込みについては、取扱窓口でお申し出ください。

銀行名/支店名	口座番号	口座名称
ゆうちょ銀行	00190-664214	地球環境基金
新生銀行/本店	普通預金 0789699	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
三井住友銀行/東京公務部	普通預金 3013615	
三菱UFJ銀行/本店	普通預金 7637448	
みずほ銀行/本店	普通預金 2413416	
りそな銀行/赤坂支店	普通預金 1023850	

- ①独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されており、税制上の優遇措置を受けられます。
- ②ゆうちょ銀行以外の銀行からお振り込みいただく場合は、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部基金管理課(TEL:044-520-9606)へご連絡ください。

■このほかにも、クレジットカードを利用したご寄付など、多様な寄付方法をご用意しています。詳しくはWEBサイトをご覧ください。
地球環境基金のホームページ <https://www.erca.go.jp/jfge/>

■ご寄付メニューのご案内

「メルカリ寄付」機能では、フリマアプリ「メルカリ」で得た商品の売上金などを、メルペイ残高として指定した寄付先に寄付をすることができます。



寄付はこちらから/



J-Coin Pay サービスを利用されている方は、お持ちのスマートフォンから簡単に「ぼちっと募金」にてご寄付いただけます。



寄付はこちらから/



若い世代の「環境意識」ってどうですか？

現在高校3年生の鈴木福さん。

近年、SDGsをテーマにしたイベントや番組でも活躍中です。

10代が考える環境とは？

リアルな思いを伺いました。

鈴木福さんの環境活動について教えてください。

いろいろな人の話を聞いて「知る」ことが今、僕ができる環境活動

地球環境を意識するきっかけは、中学1年生の時に参加した「SDGs子どもサミット」でした。その後、高校のSDGsに関する課外活動で、海洋ごみをリサイクルしてものづくりをしている方のお話を聞いたときに、環境について一気に身近に感じました。環境を守ること、物を作って売ることがつながっているんだ！すごく面白いな！って感じたんです。でも、教室にいる9割の人は正直あまり興味ない……それが僕らの世代のリアルかもしれません。SDGs・環境問題=勉強という印象で。そんな中、僕が今一番重要視しているのは「知る」ことです。先日も、紙（資源）の削減のために、番組の台本を最低部数しか刷らないようにしていることを知りました。こういう小さな陰の努力を当たり前のようにやっているのって、カッコいいなと思います。SDGsとか環境活動って流行りじゃなくて当たり前にならなきゃいけないことですよね。今僕たちは、さまざまな問題を抱えつつも、環境や世界をより良くしていく過程の中心にいたいと感じます。その過程を見たいし知りたい。今は、自分が経験したり思ったりしたことを、自分の言葉でどんどん発信していきたいと思っています。

インタビューフルバージョンはWEBサイトで10月初旬公開予定！



18歳の鈴木福さん。未来をどう見えていますか？

2030年以降も大事

SDGsは2030年までに達成を目指す目標で、僕はその時、26歳。でも、期限を迎えたからと言ってそこで終わりではなく、その頃にはまた新たな目標ができていだろうと思います。遠いようで近い未来だからこそ、今から2030年以降も見据えて考えていくことが大切だと思っています。

気になる環境分野はありますか？

伝統文化がSDGsにない

SDGsには「伝統文化」的な目標が立っていないですよね？僕の両親や祖父母は和楽器の仕事をしていますが、そういった伝統文化は世界中にあります。持続してきた期間が長ければ長いほど、環境を壊してこなかったとも言えるのになって。それらを守ることも持続可能な社会につながるんじゃないかなと思っています。

鈴木 福

2004年6月17日、東京都生まれ。1歳で芸能活動を開始。子役として数々のドラマ・映画に出演しているほか、歌手デビューも果たす。2022年9月上演の舞台『きっとこれもリハール』に出演予定。

鈴木家の環境アクションは？

食べ物を残さない

小学生や中学生の妹、弟たちも学校でSDGsについて習っているみたいです。家でも「食べ物を残さない」ことを意識していて、当たり前のことだけれどすごく重要だし、彼らもそれがSDGsにつながるのを知っています。自宅には太陽光パネルがついていますし、地域の植樹にも参加しています。父がいつも僕らのことを本当によく考えてくれていて、いつも先を、未来を見ているんです。未来を見る大切さは、両親の姿から学んだ気がします。

若い世代が環境問題を意識するためには？

環境の情報を集めたプラットフォームを！

僕が感じるのは、知りたい情報を得るのが難しいということ。調べようと思っても、どう調べればいいのかわからない。どこかにあるのかもしれないけれど、目に触れる場所がない。もっと身近に環境情報をまとめた、プラットフォームみたいなものがあるといいですよね！

鈴木福さんの環境活動ニュース

[上] 鈴木さん愛用のスニーカーのひとつが、リサイクル素材を使ったNIKEの「スペースヒッピー」。「環境に配慮していることもそうですが、じつを言うと、単純にデザインが好きなんですよね（笑）。そういうミーハーな部分から入っていくのもアリだと思います！」

[下] 中京テレビ『鈴木福のしあわせ羅針盤』では月に1度（木曜日）、SDGsに取り組むさまざまな現場取材している鈴木さん。見聞きするだけでなく、体験しながらレポートしています。



読者プレゼント！



アンケートに回答いただいた方の中から抽選で3名様に、サイン色紙をプレゼント！詳しくはP13のはがき、またはWEBへ。

※WEBからのご応募は10月初旬より受付となります。

詳しくはこちら

